

兵庫県クビアカツヤカミキリ 防除対策マニュアル



知る



見つける



対策する

早期発見、早期防除にご協力を！

兵庫県
令和5年6月

目 次

[知る]

クビアカツヤカミキリとは	1
国内及び県内での被害状況	2
クビアカツヤカミキリの生活環	3

[見つける]

フラスの見つけ方	4
間違いやすいフラスとの見分け方	5
間違いやすい昆虫との見分け方	6

[対策する]

防除対策の種類と時期	8
掘り取り、捕殺（刺殺）	9
排ふん孔への噴射	11
薬剤散布	12
薬剤の樹幹注入	14
ネット巻き	18
被害木の伐採・抜根	19
通報先	20

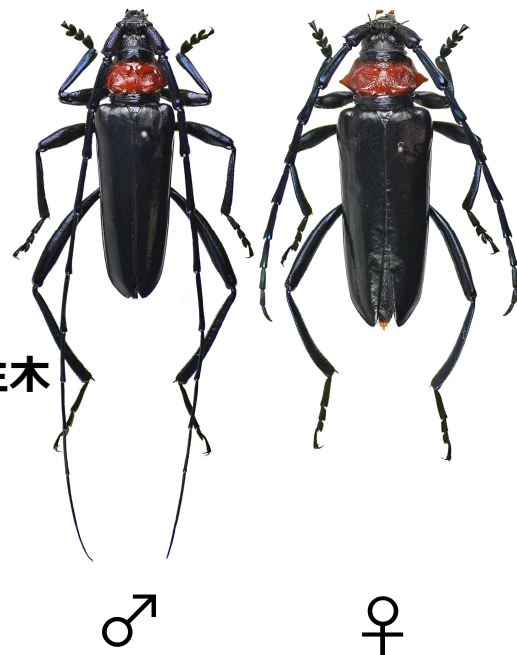
クビアカツヤカミキリ対策は、

■ 知る ■ 見つける ■ 対策する で早期に対処を！

クビアカツヤカミキリとは

クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii*

- ✓ 分類：コウチュウ目 カミキリムシ科
アオカミキリ族 ジャコウカミキリ属
- ✓ 成虫：大型（2～4cm）で
全体は艶のある黒色、クビ（胸部）は赤色
- ✓ 分布：中国、モンゴル、朝鮮半島、ベトナムなど
- ✓ 宿主：サクラ、モモ、スモモ、ウメ等のバラ科の生木
- ✓ 幼虫期間：1～3年
- ✓ 成虫発生期：5月下旬～8月中旬
幹や樹皮の割れ目に産卵



● 特徴

- ・幼虫がサクラ、モモ、スモモ、ウメなどの樹木内部を食害し木を枯らす
- ・産卵数が非常に多く、繁殖力が強い
メス1匹あたりの産卵数は、平均**350**個（最大**1000**個以上）
- ・飛翔力が高く、被害は急速に拡大・激甚化する
（成虫の移動距離は年間2～3km）
- ・車などに留まり長距離を移動する可能性もある

「特定外来生物」

平成30年1月、環境省は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づき、クビアカツヤカミキリを「生態系や農林水産業などに被害を及ぼす外来生物」（特定外来生物）に指定しました。

これにより、**飼育や生きたままの運搬・保管・放出などが禁止**されています。

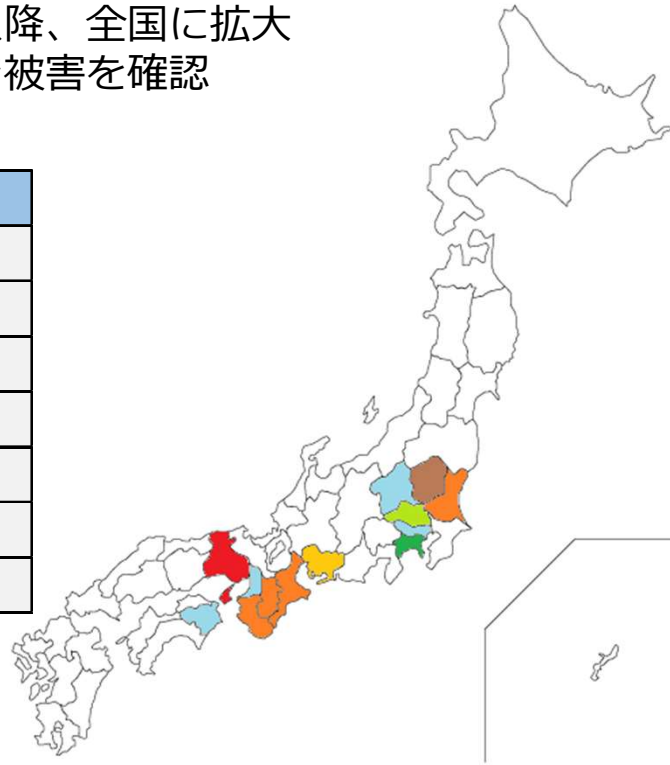
成虫や幼虫は見つけ次第、捕殺してください。

● 国内

- ・平成24年に愛知県で被害が確認されて以降、全国に拡大
- ・令和5年5月時点では、全国13都府県で被害を確認

被害の確認

年度	都道府県名
平成24年	愛知県
平成25年	埼玉県
平成27年	群馬県、東京都、大阪府、徳島県
平成29年	栃木県
令和元年	奈良県、三重県、茨城県、和歌山県
令和3年	神奈川県
令和4年	兵庫県



● 県内

- ・令和4年6月に明石市石ヶ谷公園で成虫を発見後、神戸市及び芦屋市においても相次いで被害を確認

県内の被害状況 (R5.6.30現在)



被害木：フラスが確認された木

出典：国土地理院発行2.5万分1地形図

クビアカツヤカミキリの生活環

成虫の発生・産卵
(6月上旬～8月頃)

幼虫の摂食
(3月末～11月)

フラスの排出



ポイント

クビアカツヤカミキリの成虫の脱出孔は**楕円形**



クビアカツヤカミキリ



縦に長い楕円形で縦2～3cm程度



ゴマダラカミキリ



直径1.5cm程度の円形



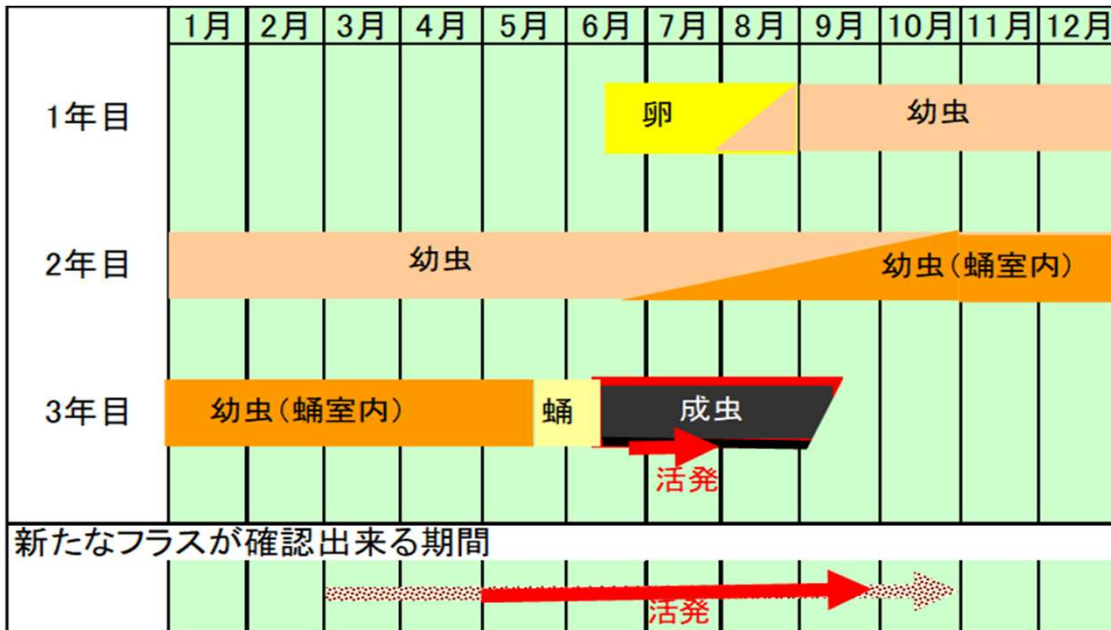
タマムシ



直径1cm程度で穴の向きは様々

※写真提供：東京都環境局

対策のスケジュール



- 成虫は6月上旬～8月頃に発生し、宿主樹木の樹皮表面や割れ目などに産卵（成虫は1カ月程度生きる。成虫では越冬しない）
- 卵は10日前後で孵化し、幼虫は樹皮下へ食入
- 幼虫は樹皮下を食害し、樹木内で1～3年かけて成長した後、蛹化

まずは桜並木や園地等を見回り、フラスを探す

特に、フラスを確認しやすい5月上旬～10月の見回りが重要

※フラスとは、幼虫が木の外に排出する「木くずとフンが混ざったもの」
フラスは、枝より太い幹の孔から排出されることが多い。



ミンチ状のフラス



表皮の排ふん孔（フラスの排出場所）
から排出したフラス



枝の上部から排出したフラス



株元に大量にたまったフラス



ポイント



株元だけでなく、
地上から高さ3 m、
直径5 cm程度の枝も
注意する



主枝直下や足元のフラスに
注意すると見つけやすい！

[見つける]

間違いやすいフラスとの見分け方

クビアカツヤカミキリは、ミンチ状や粉状のフラスを排出することが特徴であるが、見分けが難しい場合は、ほぐしてみると判別しやすい

- ☑ 明るい色のフラスが排出される
- ☑ 削りといったような**薄い木片**を多く含む

クビアカツヤカミキリ



ゴマダラカミキリ



- ☑ **繊維状の木くず**を多く含む



ウスバカミキリ



- ☑ **繊維状の木くず**を多く含む



コスカシバ



- ☑ **顆粒状の糞**が多い



アリ類



単位：mm

アリ類はパウダー状

チャイロホソヒラタカミキリ



☑ **大きさ**
クビアカツヤカミキリに比べ小型

☑ **クビ（胸部）の形**
チャイロホソヒラタカミキリは「ビーズ」型、
クビアカツヤカミキリは「そろばんの珠」型。



チャイロホソヒラタカミキリ

クビアカツヤカミキリ

ベニカミキリ



☑ **大きさ**
クビアカツヤカミキリに比べ小型

☑ **胴体の色**
クビ（胸部）だけでなく、胴体も赤い。



ベニカミキリ

クビアカツヤカミキリ

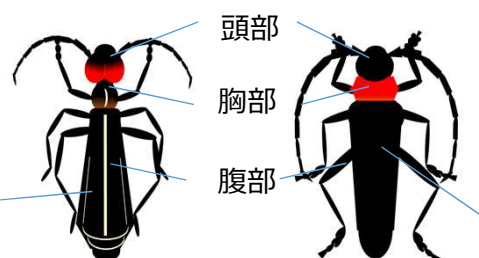
マメハンミョウ



☑ **大きさ**
クビアカツヤカミキリに比べ小型

☑ **赤い部分**
マメハンミョウは頭が赤い。

胸部、胴体に白い模様
がある個体が多い

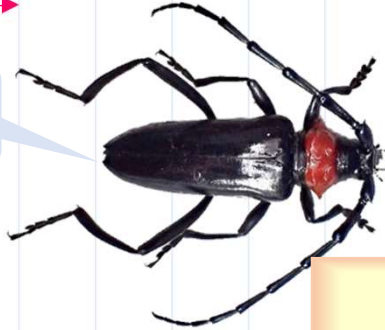


胴体に模様
はない

大きさ比較

1cm

胴体に模様はありません



クビアカツヤカミキリ
1.7~4.0cm

幼虫：さくら、もも、うめなどバラ科樹木
生きている木を食べる
成虫：枝や葉は食べない（後食しない）
樹液や果汁に集まることある

茶色が強い個体
もいます



チャイロホソヒラタカミキリ
0.8~1.5cm

幼虫：クヌギ、コナラなどナラ類
新しい枯れ木を食べる
成虫：枝や葉は食べない（後食しない）
樹液に集まることある

胴体に白色の模
様が入っている
個体もいます



ベニカミキリ
1.3~1.7cm

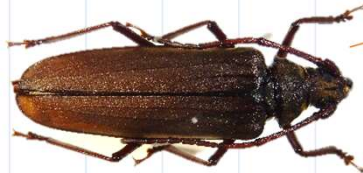
幼虫：タケ類の枯れたものを食べる
成虫：花に集まり、花粉を食べる



マメハンミョウ
1.1~1.9cm

幼虫：バッタ類の卵を食べる
成虫：大豆やナスなど、様々な植物の葉を食べる
有毒のため、素手で触らないよう注意！

クビアカツヤカミキリ
と一緒にいることが
あるカミキリムシ



ウスバカミキリ
3.0~5.0cm

幼虫：針葉樹から広葉樹まで、いろい
ろな樹種を食べるが、枯れた木
や衰弱した木を食べる
成虫：枝や葉は食べない（後食しない）

他にもミヤマカミキリ、
エグリトラカミキリな
どと一緒にいることが
あります。



リンゴカミキリ
1.5~2.3cm

幼虫：さくら、りんごなどバラ科樹木
の若い枝を食べる
成虫：バラ科の葉を食べる



ゴマダラカミキリ
2.5~3.5cm

幼虫：柑橘類、クワ、イチジクなど、
いろいろな樹種の生きている木
を食べる
成虫：いろいろな木の枝や葉を食べる

一つの方法で完全な防除は難しいので、
複数の方法を組み合わせるとしっかりと防除する

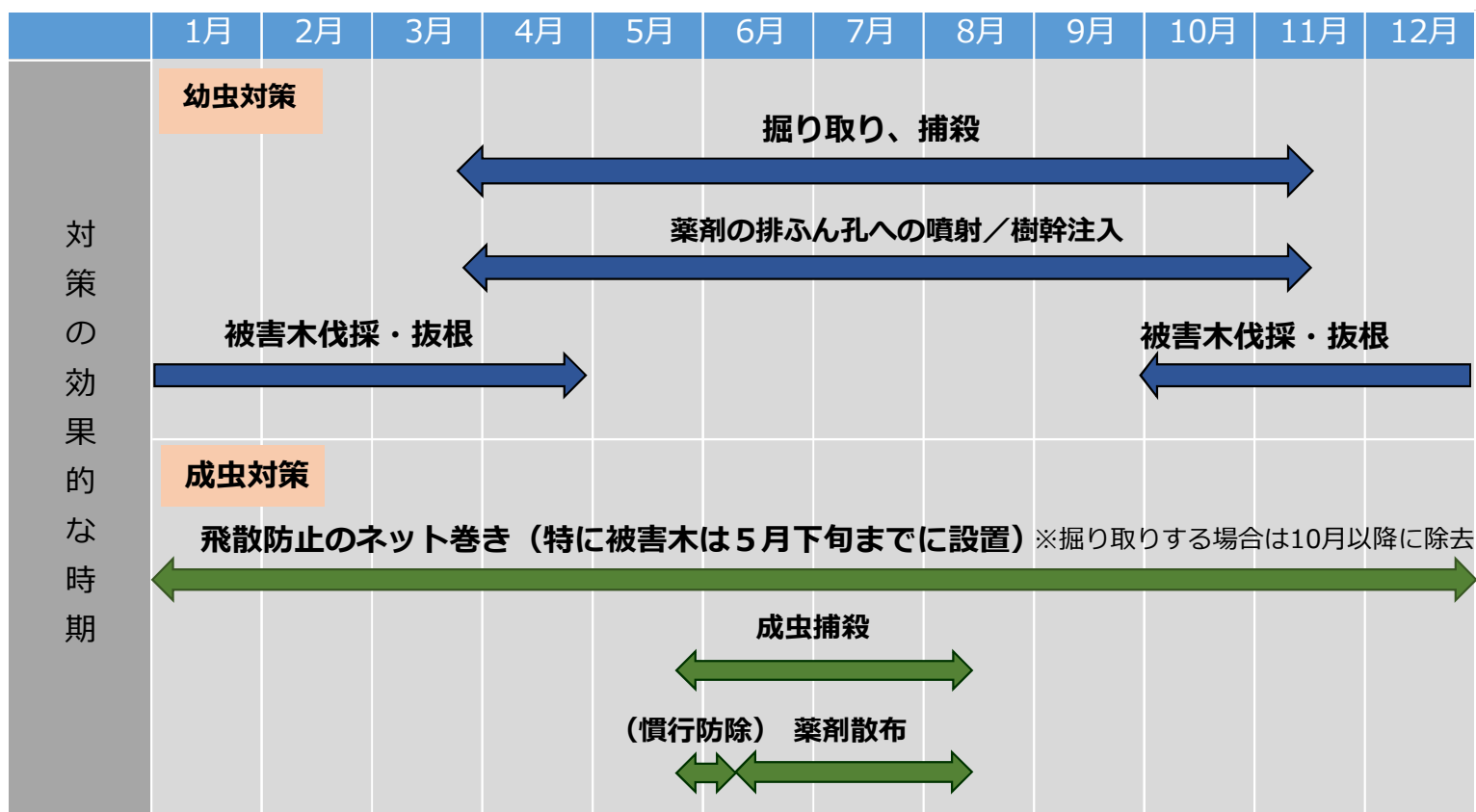
● 対策の種類

対策	対象		内容	関連ページ
	幼虫	成虫		
(1) 掘り取り・捕殺	○	○	定期的な見回りによる直接駆除	p.9(幼虫) p.10(成虫)
(2) 排ふん孔への噴射	○	-	フラスが出ている孔に薬剤を噴射	p.11
(3) 薬剤散布	△	○	木に薬剤散布	p.12
(4) 薬剤の樹幹注入	○	-	木の幹に薬剤を打ち込む	p.13-16
(5) ネット巻き	×	○	ネット被覆による成虫の脱出防止	p.17
(6) 被害木の伐採・抜根	◎	-	被害木を伐倒し粉碎または焼却	p.18

◎：効果が高い ○：効果がある △：効果が低い ×：効果がない -：対象外

● 対策の時期

各種防除対策は効果的な時期に実施する



① 幼虫（3月下旬～11月）

★ 必要な道具

マイナスドライバー、ハンマー、針金、ブラシなど

フラスを見つけたら、排ふん孔周辺の樹皮を剥ぎ、針金を差し込み、**幼虫を刺殺または掘り取り、捕殺**する。

● 方法



① 排ふん孔を見つけるため、ブラシでフラスを取り除く



② ドライバーとハンマー等を用いて、表皮をはずす

③ 太さ約2mmの針金を差し込んで、フラスを掻きだす



④ 針金で、幼虫を刺殺する（可能であれば幼虫を取り出す）

念のため薬剤を排ふん孔に噴射する

⑤ 期間を空けて、フラスの再排出がないか見回りする

②成虫（6月上旬～8月）

被害木周辺等で見つけ次第、速やかに**捕殺**する。

- ・昼行性で気温の高い日中は樹上を活発に動き回る
- ・羽化後すぐに交尾が可能のため、見つけたら必ずその場で捕殺する

[注意]

特定外来生物に指定されているため、
生きたまま持ち運ぶことは禁止されています



★必要な道具

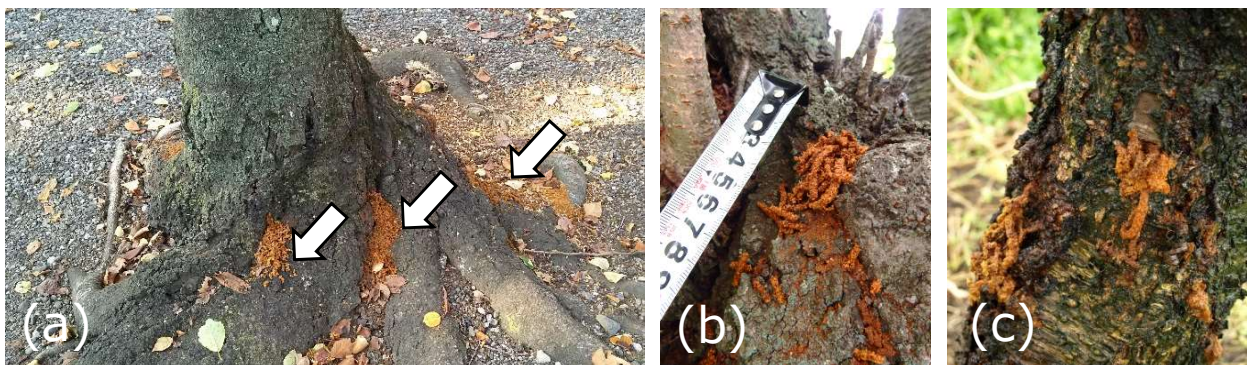
針金、ブラシ、スプレー式薬剤

※使用する薬剤の種類については、p.17参照。

排ふん孔から、**樹木内部にいる幼虫へ直接噴きかけて殺虫する**スプレータイプの農薬を使用する。

● 方法

① 樹木の株元や幹にフラスがないか観察する。



(a) さくらの株元に積もったフラス、 (b) さくらの分枝部分に溜まったフラス、 (c) ももの木から排出されたフラス

- ② 後日、新しいフラスが排出されているか確認しやすくするため(手順⑤)、金属ブラシで、株元や排ふん孔周辺のフラスを掃除する。
- ③ 針金などで、排ふん孔に詰まったフラスを取り除く。
- ④ 排ふん孔にノズルを差し込み、あふれるまで薬剤を注入する。



フラスを取り除き…



排ふん孔からあふれるまで注入！

⑤ 薬剤処理の数日後に、フラス排出の有無を確認する。

なぜなら

幼虫の作る坑道は曲がりくねっているため、奥にいる幼虫まで薬剤が届かず、駆除できていない場合があるため。

⑥ 新たなフラスが排出されていた場合、②から繰り返す。

幹や枝にかかるよう丁寧に**薬剤を散布**する。

- ・ **6月中旬～8月上旬**まで登録薬剤を**10～14日間隔で2回以上散布**する (特に**6月下旬～7月下旬が重要**で、収穫後であっても散布する)
- ・ 使用薬剤は登録内容に基づき**薬剤抵抗性発達防止**を考慮し、選択する



注意：幹や枝に高さ2～3mまでむら無く散布

成虫発生時期に使用する薬剤 (2023年6月16日現在)

作物名	農薬の名称	使用時期	希釈倍数・使用量	使用方法	本剤の使用回数	RAC※1
さくら 食用さくら(葉) 果樹類	バイオリサ・カミキリ※2	成虫発生初期	1樹当り1本	主幹又は主幹の分枝部分に巻き付ける 地際に近い主幹の分枝部分等に架ける	—	I:UNF※
うめ 小粒核果類(うめを除く) おうとう もも ネクタリン	アクタラ顆粒水溶剤	収穫7日前まで 収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内 3回以内	I:4A
さくら	マツグリーン液剤2	発生初期	200倍	散布	5回以内	I:4A
さくら うめ ネクタリン もも	アクセルフロアブル ハチハチフロアブル	成虫発生直前～成虫発生期 収穫前日まで 成虫発生期 但し、 収穫前日まで	200倍 1000倍 1000倍	主幹から株元に散布 散布 散布	6回以内 3回以内 2回以内	I:22B I:22A, 39
さくら	マツグリーン液剤2	成虫発生初期 発生初期	200倍 20倍	散布 樹幹散布	5回以内(樹幹注入は1回以内)	I:4A
さくら おうとう うめ すもも もも 小粒核果類(うめ、すももを除く)	モスピラン顆粒水溶剤	発生初期 収穫前日まで	2000倍	散布	5回以内(樹幹注入は1回以内) 1回 3回以内	I:4A

※1: 同一RACコードの薬剤は、運用を避ける。 ※2: 生物農薬

[注意] 最新の登録情報を検索のうえご使用ください
検索先 →Google Chromeまたはedgeにて、
農薬登録情報検索システムで検索！



成虫発生時期に使用する薬剤 (2023年6月16日現在)

作物名	農薬の名称	使用時期	希釈倍数・ 使用量	使用方法	本剤の使用 回数	RAC※1	
うめ	スプラサイド水 和剤	収穫14日前まで	1500倍	散布	2回以内	I:1(B)	
すもも		収穫21日前まで					
もも							
もも	スプラサイドM	収穫60日前まで	200倍	樹幹部及び主枝に散布	2回以内	I:1(B)	
うめ	スミチオン乳剤	成虫発生初期 但し、 収穫14日前まで	1000倍	散布	2回以内	I:1(B)	
さくら		成虫発生初期					6回以内
もも		成虫発生初期 但し、 収穫3日前まで					6回以内
さくら	カルホス乳剤	成虫発生初期	1000倍	散布	6回以内	I:1(B)	
さくら	オリオン水和剤	成虫発生期	1000倍	散布	5回以内	I:1(A)	
うめ		成虫発生期 但し、 収穫7日前まで			3回以内		
小粒核果類		成虫発生期 但し、 収穫7日前まで			3回以内		
もも		成虫発生期 但し、 収穫14日前まで			2回以内		
ネクタリン		成虫発生期 但し、 収穫21日前まで			2回以内		
さくら		成虫発生初期			5回以内		
うめ	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	I:4A	
すもも		収穫3日前まで					
もも		収穫7日前まで					
さくら		成虫発生初期			5回以内		
うめ	ベニカ水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	I:4A	
もも		収穫7日前まで					
さくら	トルネードエースDF	成虫発生初期	1000倍	散布	4回以内	I:22A	
さくら	ファイントリムDF	成虫発生初期	1000倍	散布	4回以内	I:22A	
おうとう	テッパン液剤	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内	I:28	
もも							
小粒核果類							
さくら	ダブルトリガー液剤	発生初期	2000倍	散布	2回以内	I:28	

※1: 同一RACコードの薬剤は、運用を避ける。

【注意】 最新の登録情報を検索のうえご使用ください
**検索先 →Google Chromeまたはedgeにて、
 農薬登録情報検索システムで検索！**



幹に薬剤を打ち込み、樹木が水を吸い上げる力を利用して、薬剤を樹木内部全体に行き渡らせて、**樹木内部にいる幼虫を殺虫**する。

多数の排ふん孔がある重度の被害木では効果が発揮されない。
葉が旺盛に茂る（水の吸い上げが多い）時期、特に、**幼虫が蛹室に潜る前の5月に処理すると効果的**。

★必要な道具

ドリル、木槌、チョーク、薬液ボトル、付属パテ

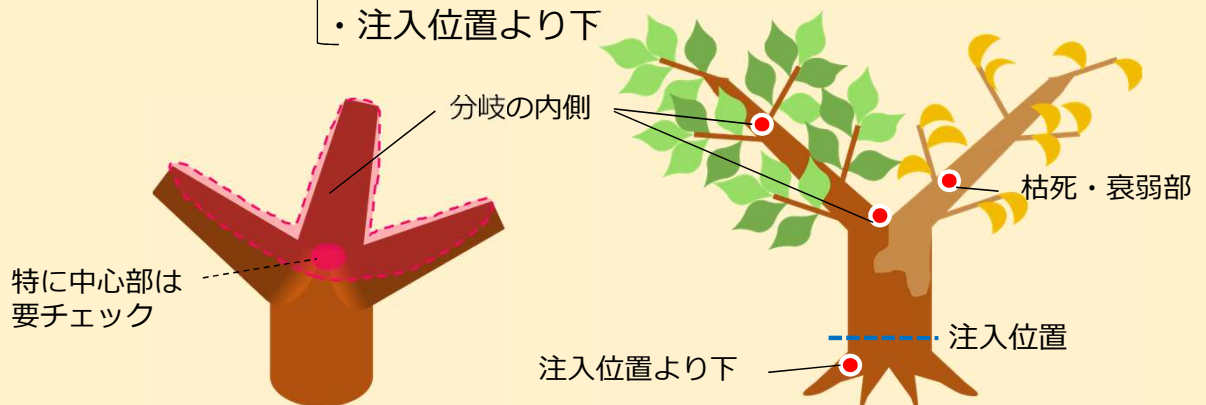
● 方法

- ① 薬剤効果の確認の準備をする（薬剤注入後、手順⑤で確認）。
- ・ 排ふん孔の下に画鋏を刺して目印をつける。
 - ・ 排ふん孔まわりの樹皮表面、被害木の周囲の地面のフラスを除去する。

目印は、1樹木あたり5個を目安にする。

排ふん孔が5個以上ある場合、次のような薬剤の効果が得にくい部分を優先して目印を付けるとよい。

- ・ 分岐の内側
- ・ 衰弱・枯死部
- ・ 注入位置より下



なぜなら 薬剤注入位置を通る水が届きにくい場所では、効果を得にくい。

- ② 注入孔の位置を決める。
- ・ 地際付近の樹皮に、チョークで約10cm間隔の×印を付ける。
 - ・ メジャーなどを樹に巻付けて穴を開ける位置を確認しても良い。



- ③ 注入孔を空ける。
- ②で印を付けたところに、ドリルで孔を空ける。



注入孔は、必ず生きている樹幹に孔を空けること。
→ スカスカした手応えやドリルくずが乾いている場合には、位置をずらす。

- ④ 注入孔に薬液ボトル又は注入補助器をしっかり刺す。

アトラック、リバイブ
(シンジェンタ・ジャパン(株))



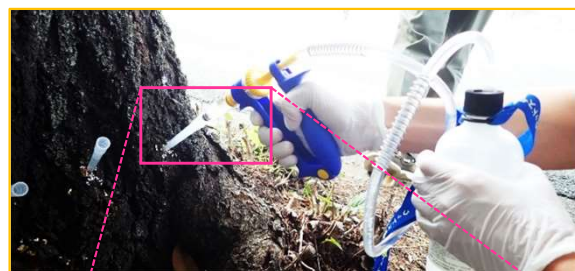
ウッドスター
(サンケイ化学(株))



- ⑤ 薬剤を注入する。
- 薬液ボトルの底部に針で穴を開ける。



注入器で、注入補助器に薬液4mlをゆっくり注入する。




- ⑥ 薬液が樹木内に吸収されたことを確認し、薬液ボトル又は注入補助器を取り外す。

- ⑦ 注入補助器を取り外したら、すぐに付属のパテで注入孔を埋める。



- ⑧ 注入剤施工後、約2週間～1か月においてフラスの排出が止まっているかどうかを点検する。
- ・ ①で、画鋲で目印を付けた箇所を中心に点検する。
 - ・ フラスが排出されている場合は再度除去し、数日後にもう一度点検する。

 夏以降、蛹室をつくった成熟幼虫は活動を停止するため、薬剤が効いていなくてもフラス排出が停止することがある。

- ⑨ フラスが止まらない排ふん孔がある場合、排ふん孔の直下に注入孔を開けて施工することも可能。
ただし、薬剤のラベルを必ず確認し、使用回数を守って使用してください。
- ⑩ 樹幹注入処理を実施した樹木であっても、生き残った幼虫が羽化する可能性があるため、翌年5月までに脱出防止ネットを設置する。ネット巻きの方法はP18参照。

薬剤によっては冬期に施工可能です。

冬期に使用可能な樹幹注入剤を注入しておくことで、クビアカツヤカミキリの活動期の初めから効果を得ることができます。



■ 幼虫の排ふん孔/樹幹に使用する薬剤 (2023年6月16日現在)

作物名	農薬の名称	使用時期	希釈倍数・使用量	使用方法	本剤の使用回数	RAC※1
さくら	園芸用キンチョールE	—	—	【専用ノズルつけかえ方式】 容器のボタンを引き抜き、専用ノズルにつけかえ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。 【2ウェイノズル方式】 折り畳まれた専用ノズルを引上げ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。	—	I:3(A)
うめ おうとう すもも もも 果樹類(※2)	ベニカカミキリムシエアゾール(※3)	収穫前日まで	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	5回以内	I:3(A)
うめ おうとう すもも もも 果樹類(※2)	ロビンフッド(※3)	収穫前日まで	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	5回以内	I:3(A)
さくら	マツグリーン液剤2	発生初期	50倍	食入孔に注入	5回以内	I:4A
うめ さくら もも 食用さくら(葉)	バイオセーフ(※4)	幼虫発生期	2500万頭(約10g)、2.5L	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	—	I:未
さくら	アトラック液剤	幼虫発生前～幼虫発生期	※5	樹幹注入	3回以内	I:4A
さくら	アクセルフロアブル	—	100倍	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	6回以内	I:22B
さくら	ウッドスター	新葉展開後～落葉前まで	※6	樹幹注入	3回以内	I:4A
さくら	リバイブ	発生前～発生期	※7	樹幹部に注入孔をあけ、注入器の先端を押し込み樹幹注入する。	1回	I:6

※1：同一RACコードの薬剤は、運用を避ける。

※2：かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、いちじく(種子)、くり、ペカン、アーモンド、くるみ、食用つばき(種子)を除く

※3：カミキリムシ類で登録がある薬剤。

※4：生物農薬。

※5：胸高直径(樹幹部)、6～10cm 30m |、11～15cm 60m |、16～20cm 90m |、21～25cm 120m |、26～30cm 180m |、30cm以上は胸高直径が5cm増すごとに30～60m | を増量する。

※6：注入部直径 6～10cm : 8～12m |、10～20cm : 12～24m |、20～30cm : 24～36m |、30～40cm : 36～48m |、40～50cm : 48～60m |、50～60cm : 60～72m |、以降、直径が10cm増すごとに12m | を追加する。

※7：胸高直径(樹幹部)6～10cm 30m |、11～15cm 60m |、16～20cm 90m |、21～25cm 120m |、26～30cm 150m | 30cm以上は胸高直径が5cm増すごとに30m | を増量する。

[注意] 最新の登録情報を検索のうえご使用ください

検索先 →Google Chromeまたはedgeにて、

農薬登録情報検索システムで検索！



成虫の脱出を防止するため、被害木にネットを巻く。その後は、**定期的に見回り**、ネット内に発生する**成虫を捕殺**する。

★ 必要な道具

- ①クビアカガードネット 1.8 × 50m、②クビアカガードネット 0.9 × 50m、③株元からの雑草抑制用 切り株からの脱出防止用 防草アグリシート(推奨規格：1.5 × 100m)、④小枝・ひこばえ抑制用 アグリシートテープ 8cm × 10m、⑤小枝・ひこばえ抑制用 アグリシートテープ ハーフカット 10cm × 10m、⑥長さ測定用スケール、⑦クビアカツヤカミキリ幼虫駆除用殺虫剤、⑧樹木切り口用 殺菌塗布剤、⑨ノコギリ、⑩剪定バサミ、⑪排糞孔清掃と刺殺用の千枚通し、⑫浮かせヒモ用 PP ロープ、⑬補強用シュロ縄、⑭補強用粘着テープ、⑮ガンタッカー (針：足長 13mm ・ステンレス製)、⑯ホッチキス (針：ステンレス製)、⑰ハサミ、⑱カッター、⑲金槌、⑳黒丸君 U 字ピン+ワッシャー付 (推奨規格：15cm or 20cm)



ネット巻きの詳しい手順については、**施工手順要領書**をご参照ください
https://www.sunsunnet.co.jp/cms/uploads/upload_039.pdf

<施工例>



成虫の発生の恐れのない10月以降から4月下旬までに実施する

★必要な道具

伐採道具（チェーンソー等）、防草シート（黒色）、シート押さえUピン、ハサミ等

●被害の拡散防止

- ・伐採・抜根は確実に幼虫を駆除できるため、被害拡散防止効果が最も高い
- ・健全木への被害拡散防止にもなる

幼虫が根まで侵入していた事例がある



抜根できない場合は、伐採後、根を防草シートで覆う

[重要]

- サクラは半枯れ状態で伐採される場合が多く、根が生きているので光合成阻害により枯死させる効果のある防草シート(黒色)が望ましい
- 事前に切り株に覆土するとより効果がある

[注意]

- 伐採樹は枯れても成虫が脱出するので放置せず、4月末までに粉碎、または焼却処分する
- 搬出、焼却先は当該市役所、町役場担当課と相談して決定、実施する
- 速やかな処分が難しい場合、搬出までの保管は防草シートを2重に巻いて密封して保管する
- 持ち出しが困難な場合は、くん蒸処理する方法もある



根覆い

くん蒸剤 (2023年6月16日現在)

作物名	農薬の名称	希釈倍数・使用量	使用方法	くん蒸時間	本剤の使用回数	RAC
さくら(伐倒木)	NCS	被覆内容積1m3当り原液1.0L	加害された伐倒木を配置し本剤を散布し、直ちにビニール等で密閉し、くん蒸する。	14日以上	1回	I:8F
うめ(伐倒木)						
すもも(伐倒木)						
もも(伐倒木)						
さくら(伐倒木、枯損木)	キルパー40	被覆内容積1m3当り原液750～1500ml	加害された伐倒木を集積したものまたは枯損木に、所定薬量を散布し、直ちにビニールシート等で密閉し所定期間くん蒸する。	14日間以上	1回	I:8F
もも(伐倒木、枯損木)						
うめ(伐倒木、枯損木)						
すもも(伐倒木、枯損木)						

[注意] 最新の登録情報を検索のうえご使用ください



早期発見、早期対策（駆除）が重要！

公園等で、クビアカツヤカミキリの成虫やフラスを発見したら必ず、県自然鳥獣共生課や市町まで連絡をお願いします。

● 通報先

兵庫県環境部自然鳥獣共生課

TEL : 078-362-3389

E-mail : shizenchoujuu@pref.hyogo.lg.jp

● 注意事項等

- ・成虫、フラスの発見日時・発見場所・発見時の状況をお知らせください。（撮影した写真データを送信いただけると助かります。）
- ・成虫を捕まえた場合はその場で殺処分してください。
- ※クビアカツヤカミキリを**生きたまま持ち運ぶことは違法**となります。
- ・死んでいる個体であっても、見つけた場合は連絡してください。

【問合わせ先】

兵庫県 環境部自然鳥獣共生課 自然環境保全班

TEL : 078-362-3389

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号



※本マニュアルの作成にあたっては、和歌山県・栃木県作成のマニュアルを許可をいただいた上で、活用しています。改めて感謝申し上げます。